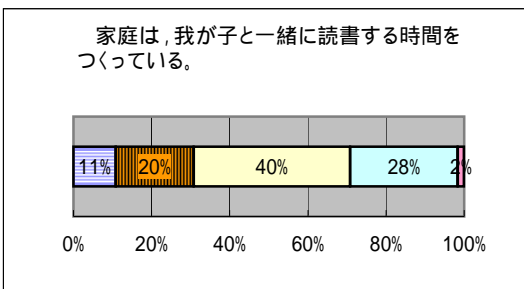
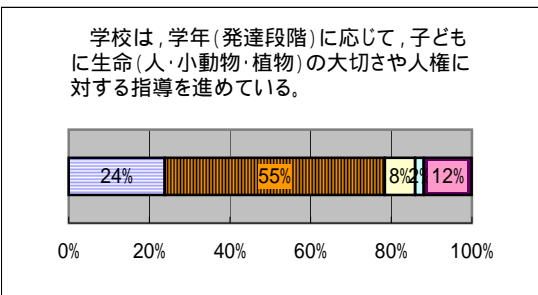
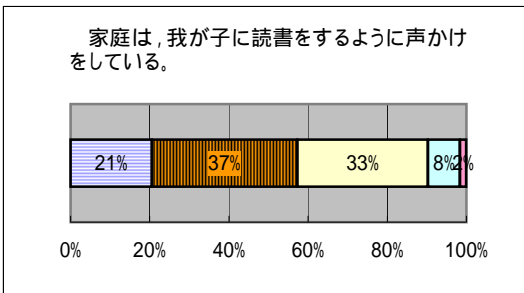
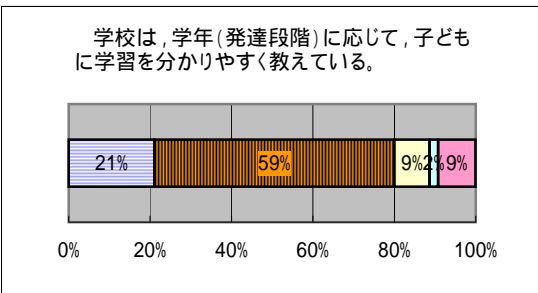
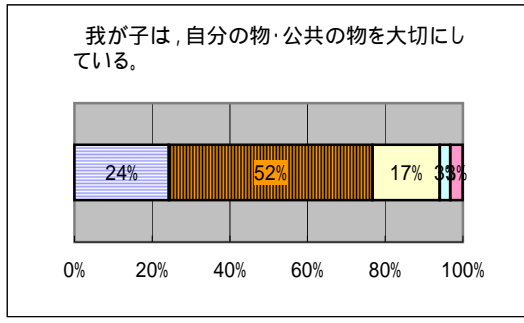
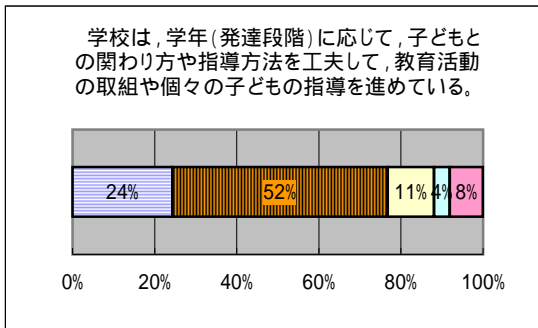
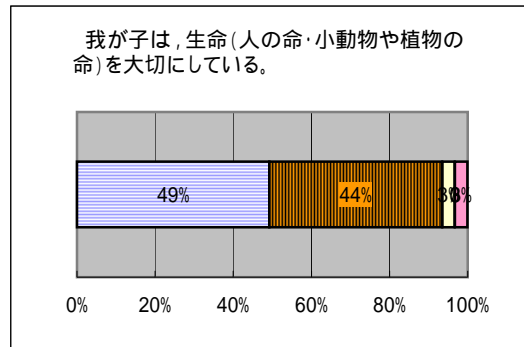
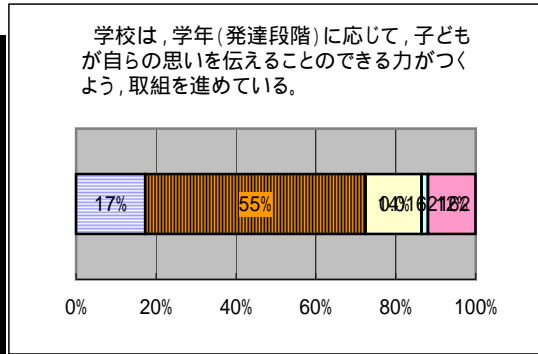


平成18年度学校教育(後期)保護者アンケート

- よくできている
- できている
- もう少し
- できていない
- わからない



第2回学校教育保護者アンケートありがとうございました。1回目と同様に約8割のご家庭より、ご回答をいただきました。

「我が子は、生命(人の命・小動物や植物の命)を大切にしている」は「大変よい・おおむねよい」が93%でした。教職員の自己評価においても「自他ともに命を大切に取る取組を進めた」が94%でした。人権教育をあらゆる教育活動で推進し、命の尊さを学校・家庭が共に教え、導いている成果ではないかと思えます。

読書に関する項目では、学校生活をよりよくする子どもアンケート(冬休み臨時号でお知らせ)の結果は「自分から進んで読書していますか」では、「よくする・する」は73%でした。保護者アンケートでは、「家庭は、我が子に読書するように声かけをしている」の「よくする・する」が58%で、「一緒に読書する時間をつくっている」の「よくつくっている・つくっている」が31%でした。子どもの読書習慣の定着と多くのいろいろな本との出会いを考え、学校では朝のさわやかタイムなどに力をいれています。また、家庭においても半数以上の家庭で声かけをされています。しかしながら、子どもと一緒に読書をしている家庭は、少ないようです。読書が楽しくできる子どもがますます増えるよう、今後も学校と家庭の連携を深め、心の肥やしになる読書活動の取組を推進していきたいと考えています。ご家庭でもお子達とともにゆっくり本に親しむ機会を増やし、家族団楽の話題になればと思います。

「自分の物、公共の物等を大切にしていますか」では、子どもアンケートでは、「よくできる・できる」が93%になりましたが、保護者アンケートの「我が子は、自分の物・公共の物を大切にしていますか」では、「よくできる・できる」が76%に留まりました。子どもと大人では、物を大切にするという基準が違うように思われます。今後、懇談会や家庭教育学級などにおいて、物を大切にすることは、どのような子どもであればよいのか子育てについての話題もとりあげ、家庭・学校が歩調を合わせて子どもに接していくことが大切だと考えます。

授業に関する項目では、子どもアンケートの「授業はよくわかりますか」については、「よくわかる・わかる」が92%でした。保護者アンケートの「学校は、学年(発達段階)に応じて、子どもに学習を分かりやすく教えている。」では、「大変できている・できている」が80%でした。しかしながら、「もう少し、できていない」との評価があることを厳粛に受け止め、日々の取組を丁寧に進めていきたいと考えています。

今年度も最終の月に入ります。教職員一人一人がアンケートでいただきました結果を真摯に受け止め、明日からの励みとしていきます。ご協力ありがとうございました。